

2018 平和行動 in 沖縄「北海道代表団」を派遣

太平洋戦争で唯一の一般住民を巻き込んだ地上戦により、20万人あまりの尊い命が奪われた沖縄戦は、6月23日に日本軍による組織的な戦闘が終結し、沖縄県は、この日をすべての沖縄戦戦没者の霊を慰める「慰霊の日」と定めた。

連合は毎年この日に合わせて平和行動を沖縄で実施している。連合北海道は、この行動に沖縄が直面している問題を学習し、今後の平和運動をさらに進めていくため、本年は13名の北海道代表団を派遣した。

本年の日程には、バス車内での学習会と、昨年、平和オキナワ集会において基調講演により「沖縄の縮図」と紹介された「伊江島」でのフィールドワークを加え実施した。

21日、まだ梅雨明けぬ暑ぐるしい那覇空港に到着した一行は、休む間もなく、バス車窓から米軍基地や実際のオスプレイの飛行などを見入りながら琉球新報 島袋良太記者より「沖縄基地の虚実」と題した講演を受けた。



島袋講師は、海兵隊を中心とする米軍駐留の不合理性、安全協定を無視して日々行われる訓練の不条理と危険性、繰り返される米兵による事件・事故、返還された基地の放置された枯れ葉剤や PCB による汚染、基地で使用される消火剤の健康被害等について語るとともに、それらが日米地位協定によって、日本であるにも関わらず日本の主権・国内法が及ばない状況にあると講じた。

また、途中休憩の高速道路パーキングでは、当地に隣接するキャンプ・ハンセンの演習の流れ弾が着弾したことと、そのために「流弾注意」看板の設置が紹介された。人ごとのように車中で聞いていたが、後に移動ルート上の名護市で、我々のバスが通過した数時間後に流弾が農家の窓ガラスを割る事件がおきたことが紹介された。

翌22日は伊江島を訪問した。昨年の平和集会において基調講演をした伊江島観光バスの山城克己代表が自らバスのハンドルを握り「沖縄の縮図」と言われる伊江島を案内していただいた。

「1945年3月23日からの空襲、25日から始まった艦砲射撃は、あらゆる建造物・目標物を攻撃した。

米軍の上陸は4月16日から始まり21日に終了。

たった6日間の戦闘で、約2,700名の日本軍と約4,000名の島民のうち4,706名もの命が奪われた。

日本軍は戦闘訓練を受けていない住民まで含んだ戦力で、あらゆる近代兵器で装備した米軍と逃げ場の無い小さな島で大激戦が展開された。子ども・老人・女性にかかわらず部隊の都合で動員された。日本兵による住民虐殺。降伏を許さない教育と作戦による集団自決と集団死強要。伊江島の戦闘は『沖縄戦の縮図』だ」と戦跡を案内しながら述べる山城代表。



また「戦後は銃剣とブルドーザーで家は次々と破壊され土地を奪われた。生きるすべを失った住民は、ついに乞食になることを決意し『乞食行進』を本島で始めた。この闘いが沖縄の『島ぐるみ闘争』の原点となった。伊江島では『土地を守る会』が結成され闘い、ベトナム戦争時にミサイル基地建設を阻止した。島民の力で1970年に米軍基地の41%が開放されたが、今なお35%が米軍用地で占められている。

米軍による事故の中で、特に大きなものは、1948年8月に沖縄戦の不発弾を伊江島に集め、海中投棄していた米軍の爆弾運搬船が栈橋で大爆発を起こした。たまたま港に着いた連絡船も巻き込まれ102名が死亡し、73名が負傷した。



危険な船が民間船と同居しているのが間違っていると米軍に補償を求めたが、講和条約が締結されていない占領中だとして米軍は応じなかった。伊江島は『戦後の沖縄の縮図』でもある」と述べ、「北海道に帰り『この沖縄の闘い』を伝えてほしい。来年も島の現実にあふれ、五感で島と平和を感じに来てほしい」とフィールドワークを閉めた。



翌23日、全国から1100名が参加した連合本部主催の2018平和オキナワ集会へ参加した。

連合北海道を代表し大出副会長が登壇。平和メッセージとして「慰霊の日を制定した沖縄県に敬意を表す。今日に至るまで沖縄に過重な米軍基地負担が続く。米軍基地が



あるゆえに起こる事件・事故など、沖縄の抱えている問題を日本全体の問題にとらえる。県民の反対を押し切って強行される普天間飛行場の辺野古移設を許すわけにはいかない。

連合北海道は沖縄米海兵隊の矢臼別での移転訓練が、全国への危険の分散・拡大であり、沖縄の負担軽減・米軍基地の抜本的な解決では無いこと。さらにオスプレイを配備して拡大する日米共同訓練については、北方領土問題解決を大きく後退させること。そして、

相次ぐ米艦船の道内港寄港には地位協定の観点から反対運動に取り組んでいる。

これらの行動により北海道の地において在日米軍基地の整理縮小、日米地位協定の抜本の見直しを広く訴え、沖縄と連帯する。いま、安倍政権により特定秘密法、安保関連法、共謀罪が制定され、平和と民主主義、立憲主義が危機的な状況にある。平和と民主主義を取り戻す運動とともに頑張ろう」と力強く訴えた。

最終日の24日は、南部戦跡を回り、糸数アブチラガマへの入壕、ひめゆり平和祈念資料館や沖縄県平和祈念資料館を巡り、全行程を終えた。

連合北海道は戦争がもたらした惨劇と実相を忘れることなく、引き続き「米軍基地の整理・縮小」「日米地位協定の抜本改定」を求め平和運動を推進していく。